

人の色と花の色

人に関する色彩の

源流はすべて血液

黒い髪

グレーの瞳

栗色やブロンドの髪

ブルーの瞳孔

黄色い肌に黒い肌

ミルク色の透ける肌

褐色に輝ける肌

漆黒に光るアフリカの肌

血の源流が憎しみを産み

異種の血を流し

人としての尊厳を腐敗させ

歴史に自己嫌悪を刻ませた

白い百合があり黒い百合さえあり

赤い薔薇があり斑らの薔薇さえある

ピンクの花が舞い紫の花が踊り

黄色の水仙が首を立て紺の菖蒲がしなをつくる

色が隣の色を生かし

隣の色を映して自分が生きる

しかし彼らに争いは無い

彼らには手足と頭脳が無いからか

人間の手は人を抱くためにあり

仲間の手をしっかりと握るためにあり

愛する人を愛撫するためにある

人の首を締めるためにあるのでもなく

銃を取るためにあるのでもない

花のように生きられてこそ

人の頭脳は血の色彩を優しく受け入れて

手足に伝えるのであろうか

人の花園の香りはまだはるかに遠い